

羅臼高校における校務 DX の取組

北海道羅臼高等学校 学級数 3 (校長 古屋 順一)

□ 実践の概要

羅臼高校では令和 6 年度から学校独自の校務 DX に取り組んでいる。Google Workspace を活用した様々な校務支援の仕組みを構築し、教職員の働き方改革やウェルビーイングにつなげる取組を展開しており、単なる業務のデジタル化に留まらずに、働き方そのものの改革につなげる。

1 実践の目的

羅臼高校は普通科 1 間口の小規模校であり、事務を含めて 16 名の教職員で全ての業務を遂行している。以前は紙ベースの校務処理が多く、パソコンを使った業務においても使用するソフトウェアがスタンドアローン型であることから、学校にいなければ何も仕事ができないという状況であった。在校等時間の超過も多く見られ、勤務時間の縮減が課題となっていたことから、これを改善することを主な目的として、校務 DX を推進した。

2 実践内容

(1) 実施計画

【羅臼高校校務 DX 計画】

- ア チャットの活用 (教職員用チャット、管理職用チャット、決裁用チャット)
- イ 共有ドライブの活用
- ウ 校務サイトの立ち上げと運用
- エ 羅臼町内他校種とのクラウド構築 (羅臼町教育委員会ドメインの稼働に全面的に協力)
- オ 「羅高の DX」サイトによる外部への情報提供 など

(2) 取組の具体

最も特徴的な取組が「チャットによる簡易電子決裁」である。これにより、起案→合議→事前確認→資料配付の全ての工程でペーパーレスが実現し、紙を 1 枚も使わずに会議を行うことが実現できた。校長による決裁がチャット上で可能になったことで、校長が出張等で不在の場合でも出先から随時決裁ができ、校務の停滞を招くことが皆無となった。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

【成果】

- ・クラウド活用による業務の削減や効率化が顕著である。
- ・起案から決定まで全てをペーパーレスにすることで、意思決定が非常に速くなり、紙の無駄使いも大幅に減った。

【課題】

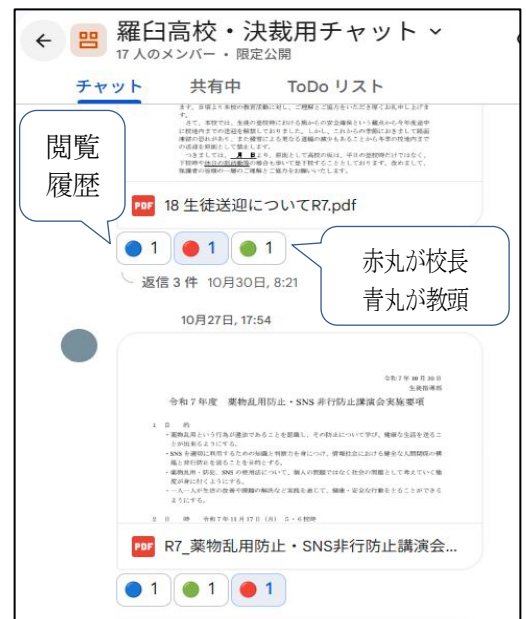
- ・時間的、心理的余裕が生まれた余白を、十分に働き方改革やウェルビーイングに結びつけられていない面がある。今後、具体的な方策を進める必要がある。

(4) 改善に向けた取組

- ・GAS (Google Apps Script) を利用した、学校代表メールアドレス宛の通知メール等の処理を自動化するプログラミング開発 (研究段階)
- ・生成 AI を活用した基本時間割の作成 (研究段階)

3 実践のポイント

- ・初任層を中心とするデジタルネイティブ世代の若い教職員が多いことから、クラウドの導入についての抵抗感がなく、スムーズに導入できた。
- ・特別なアプリケーションソフトウェアを使わずに、Google Workspace にあるアプリのみで取組を進めたことにより、端末機種を問わずに共有資産にアクセスできるようになった。
- ・打合せ等による対話の場面の確保につながり、教職員間のコミュニケーションが円滑になった。
- ・校務 DX で得られた経験は、全生徒の学びの DX にも生かされており、学習の効率化も大幅に進んだ。



【決裁用チャットの画面例】